

海を越えてひろがる交流の輪

広報 vol. 7

Public Information

1998. 3

KAKOGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION

財団法人 加古川市国際交流協会



＜ワイタケレ市に寄贈された日本庭園＞

◆ CONTENTS ◆

(財) 加古川市国際交流協会 1997年 国際交流レビュー	2
加古川市からワイタケレ市へ日本庭園寄贈	5
I LOVE KAKOGAWA 在住外国人紹介のページ	6
インフォメーション	7

4月 日本語講座開講

(4/10～3/19)

平成6年から開講した日本語講座も4年目を迎え、のべ約140人の外国人が日本語を学び、また50人のボランティアの方々が教べんを執りました。

教室には、さまざまな国籍の生徒たちが、自分のレベルに応じたクラスで学んでいます。



＜初級クラスの皆さん＞

5月 マリンガ市制50周年 記念訪問団派遣

(5/7～5/15)

ブラジル・パラナ州にある姉妹都市マリンガ市との交流を深めるため、市民の派遣事業を実施しました。マリンガ市では、市制記念式典が行なわれ、市民6名の他、加古川市の代表者も出席しました。



＜マリンガにて＞

8月 青少年海外派遣

(8月)

第6回中学生海外派遣団が10日から23日までワイタケレ市を、また第5回青年海外派遣団が11日から21日までマリンガ市をそれぞれ訪問しました。派遣生の報告を一人ずつ紹介いたします。

加古川中学校2年 多田 望

環境や習慣など全て違うところで、そして毎日を英語だけで過ごすのは、私にとって初めての事でした。最初は、話していることが、相手に通じているのかどうか、不安でいっぱいでした。でも、そういう思いも生活に慣れると、だんだん無くなっていきました。滞在中は、文化や生活習慣、人の優しさなど、自分の肌で触れてみて初めて理解できました。

これからは、この経験を生かして、いろいろなことにチャレンジしていきたいと思いま

す。ニュージーランドでの思い出、一諸に行ったメンバーを一生忘れないでしょう。



＜シープワールドでのひとコマ＞

海外の学校やスポーツ施設への関心から、私は言葉の壁を抱えたままブラジルへ出発した。

イグアスの滝、マラカナンスタジアムなど、出発前から楽しみにしていた観光地はもちろん、見るものすべてに南米大陸の雄大さを感じた。マリンガ市では、文化体育協会の施設の素晴らしさや日本語学校で学ぶ子供たちの輝いた眼差しが、人を教える職業に就く私の憧れとなった。

私が得た最もかけがえのないものは、ホスト家族との出会いである。家族の皆さんは、私を新しい家族の一員として、食事、サッカー、サンバとブラジルの文化を、やさしさをもって真剣に教えてくれた。別れの日、空港に集まった人の涙が本当の友人、家族となった証であり、帰国後も常に2万km離れた家族と親友のことを考えている。今後は再会を約束した家族と親友のためにも、両市の交流に携わっていきたいと思っている。



＜マリンガの農場にて＞

9月 **ワイタケレ市** **障害者海外派遣団来加**

(9/16～9/27)

ワイタケレ市からカレッジ（日本の中学・高校）の生徒13名と引率9名が加古川市を訪れました。

加古川市からワイタケレ市には過去3回障害をもつ生徒を派遣していますが、ワイタケレ市から今回初めての訪問になりました。



＜野口南小学校で玉入れ競技に挑戦＞

10月 **ふれあい** **国際料理講座**

(10/17～12/12)

在住外国人を講師にして、お国自慢の家庭料理を学ぶ講座が今年も開催されました。

今回学んだ料理は、韓国・ベトナム・イタリア・中国・インド料理の5回コース。

どの料理も意外と簡単に作れました。



＜イタリア料理講師 マイケル・ベースマンさん＞

12月 **日本語教育ボランティア養成講座**

(12/6~1/31)

日本語教育を指導するボランティアを養成するための講座で、7回の授業を行いました。グループごとに模擬授業を取り入れた実践的な内容です。



＜熱心に授業に取り組む受講生＞



＜表敬訪問の様子＞

12月 **パラナ州経済使節団来加** (12/8)

アントニオ・上野ブラジル連邦議員を団長とする、パラナ州経済使節団が加古川市を訪れました。

メンバーは、副知事、議員や会社経営者など、パラナ州で活躍されている24名で、市役所を表敬訪問した後、マリンガ市から贈られた記念碑を見学しました。

1月 **マリンガ市青年来加** (1/21~1/25)

栄森団長と8名のマリンガ市青年が、加古川に滞りました。派遣生は、ホームステイを通じ加古川市民と交流を深め、また地元の酒造会社で、酒の仕込みを見学したり姫路城を訪れるなど、日本での生活を満喫しました。



＜マリンガから贈られた記念碑前で＞



＜ワイタキ庭園にて＞

2月 **障害者海外派遣** (2/12~2/19)

市内の障害児学級の生徒や養護学校の生徒が、ニュージーランド・ワイタケレ市を訪問しました。

現地ではセーリングや、乗馬などを体験したり、ワイタケレ市の人々との交流など充実した研修となりました。

加古川市からワイタケレ市へ日本庭園寄贈

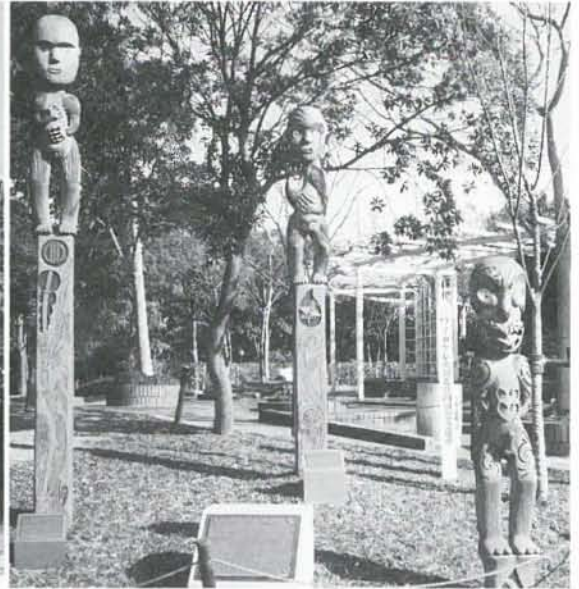
平成10年2月、ニュージーランドのワイタケレ市役所敷地内に、日本庭園が完成しました。

平成8年に姉妹都市提携5周年を記念して、ワイタケレ市からニュージーランドの先住民族マオリ族が彫刻した、3本のトーテムポールを寄贈していただいたことに対する返礼で、ワイタケレ市では初めての日本庭園になります。

＜竣工式の様子＞



＜小柳公園に立つトーテムポール＞



加古川市をイメージした枯れ山水の回遊式庭園で、日本文化を理解しやすいよう代表的な日本庭園の要素を多く盛り込んでいます。

設計は加古川市が行ない、日本人技術者の指導のもと、昨年秋からニュージーランドの業者が施工しました。

2月13日の竣工式には、国際交流協会・加古川市・灯ろうを寄贈した団体の各代表者・市議会議員団・協会賛助会員の方々・障害者海外派遣団など約60名の人々が参加しました。

この庭園を多くのワイタケレ市民が訪れることによって、姉妹都市交流により理解が深まるよう期待されています。



△ 掘入れ式 △



△ 庭園建設現場風景 △

I LOVE KAKOGAWA ④

～ 在住外国人紹介のページ ～

今回は加古川在住で、日本語を勉強するために来日した男性にお話をお伺いします。

今回のお客様

ジンヨット・ロアノンチャイさん

Q：初めに自己紹介をお願いします。

A：タイの東北部出身で、27才です。

市内でホームステイをしています。

Q：日本語を勉強しているということですが。

A：元町にある日本語学校で勉強しています。

12月に日本語能力検定試験を受験しました。

今は漢字や読解の勉強をしています。漢字は読み書きが難しく、今後さらに勉強したいと思います。

Q：日本や加古川の印象は？

A：道を尋ねた時など、困った時にとても親切にしてもらっています。

また、テクノロジーが進んでいる素晴らしい国だと思います。

来日して驚いたことは、電化製品は思っていた以上に安いですが、物価が高いこと。

それから交通手段がとても発達していることです。

Q：故郷のことについて教えてください。



A：バンコクから約330km離れた所にあるチャイアプーム県にある人口4、5万の村から来ました。

米を作っている農家が8割を占めています。最近若者が都会へ移り住むことが問題になっています。

故郷では、毎年1月の10日頃に“象祭り”が開かれ、動物園にいる多くの象が村に集まってきます。そして華やかな衣裳を付けてパレードをしたり、象のサッカーを見ることができます。

Q：帰国後はどんなことをしたいですか？

A：機械が好きなので、バイクを作る会社で働きたいです。日本語ができれば現地の有力企業で働くことができるので、今一生懸命勉強しています。

：どうもありがとうございました。



加古川市には、現在約2300人の外国籍の方が住んでおられ、その数は年毎に増加しています。

同じ地域に住む住民として、共に歩めるような社会を創るよう心がけたいものです。



INFORMATION

《ワーキングホリデー》

ワーキングホリデーは、滞在資金をアルバイトで補いながら、最長一年間の海外生活を体験できる制度です。

この制度を利用して行ける国はオーストラリア、ニュージーランド、カナダの3カ国です。

このビザは、労働ビザと観光ビザとの中間に属するもので、労働、就学など一定の制約もあり、また年齢制限もあります。

日本では、労働省の許可団体である日本ワーキングホリデー協会が国の委託を受けて、渡航準備に関する説明会を実施し、制度の理解促進を図っています。

問い合わせ先

(社) 日本ワーキングホリデー協会大阪支所

TEL (0722) 96-5741

《青年海外協力隊員募集について》

開発途上国の国づくりのために、自分の持っている技術や経験を活かしたい。

そうした青年の希望を達成する道を開いているのが青年海外協力隊です。

国際協力事業団が実施する事業で、現地の人々と共に生活しながら、様々な分野で協力していくというものです。

毎年協力隊員を募集しています。

問い合わせ先

◎ 国際交流事業団大阪国際センター

TEL (0726) 41-6900

◎ 24時間テレフォンガイド

TEL (0726) 41-7000

◎ 24時間ファックスガイド

FAX (0726) 41-7005

《海外危険情報についてのお知らせ》

最近、海外渡航中の事件が多く発生しています。危険を少しでも回避できるよう、外務省は、渡航に関し特別な注意が必要な国の治安状況を5段階の危険度に区分し、「海外危険情報」を提供しています。

海外に行かれる場合、事故等から身を守る為にも活用されることをお勧めします。

問い合わせ先

◎ 外務省海外安全相談センター

TEL (03) 3581-3749

◎ 海外安全テレフォンサービス

TEL (03) 3592-3940

◎ 国別安全情報ファックスサービス

TEL (03) 3584-3300

《ポルトガル語短期集中講座》

NHKラジオ放送でポルトガル語講座が開講されます。内容は「あいさつ」、「道をたずねる」や「買い物をする」など簡単な初歩の内容です。興味のある方は挑戦されてみてはいかがでしょうか。

◆ 放送予定日 ◆

NHKラジオ (第2放送)

平成10年3月23日～4月4日

(3月29日は除く)

AM 11:00～11:30

PM 9:00～9:30 (再放送)

《図書の貸出をしています》

国際交流協会では、図書の貸出をしています。ぜひお立ち寄りください。

貸し出し方法は、図書カードに名前・日付を記入するだけです。

返却は、2週間以内をお願いします。

下記の分野の本が貸し出しできます。

- ★ 国際交流関係（小説・旅行記）
- ★ 姉妹都市関係（ブラジル・ニュージーランドに関する書籍）
- ★ 留学・旅行・語学関係
- ★ 日本語教育関係



《国際交流講演会の開催》

- 日 時 平成10年3月21日（土）
午後2時～3時30分
- 会 場 加古川市民会館中ホール
- ゲ ス ト デーブ・スペクター氏
- テ ー マ 『不思議な国、日本』〈予定〉
- 入 場 料 無 料
- 申 し 込 み 当日会員証を受付でご提示下さい。賛助会員以外の方は、協会、各市民センター、市役所で配布している整理券が必要です。
- 問い合わせ 国際交流協会事務局

《テレホンカード・古ハガキの回収》

使用済みのテレホンカードやオレンジカードを回収しています。

ハガキは書き損じなど古いものでも結構です。

集まったものは日本国際ボランティアセンターを通じて、東南アジアの復興に役立てられます。

協会まで持参、もしくは郵送してください。

外貨コイン、使用済み切手も集めています。

皆様のご協力をお願いします。

《賛助会員募集》

協会では、国際交流活動や外国人の受入れ体制整備事業など各種事業を実施することに対し、その趣旨に賛同しご支援くださる賛助会員の募集をしております。

納入していただいた会費は、事業の運営費として活用させていただきます。

● 会 費

個人会費	1口	2,000円
団体会費	1口	5,000円
法人会費	1口	10,000円

● 申し込み

協会事務局、市内各公民館、市役所案内などに申込書が置いてあります。

詳しくは、協会までお問い合わせください。

《ボランティア募集》

協会の事業をお手伝いしてくださるボランティアを募集しています。

① 語学ボランティア

各種交流事業での通訳、ガイド及び翻訳

② 各種サービスボランティア

日本文化の紹介、外国人への日本語指導など

③ ホームステイボランティア

外国人のホームステイ受け入れ



1998年3月発行

(財) 加古川市国際交流協会

〒675-0031

加古川市加古川町北在家112-1

TEL 0794-25-1166

FAX 0794-25-0200

編 集 後 記

新しい年を迎え、みなさまいかがお過ごしでしょうか。今年も微力ながら、草の根交流が今後さらに広まっていくよう職員一同がんばりたいと思います。協会へのご意見、ご感想をお待ちしています。